

医師の異動（3月）

■着任（令和6年3月1日付） ありません

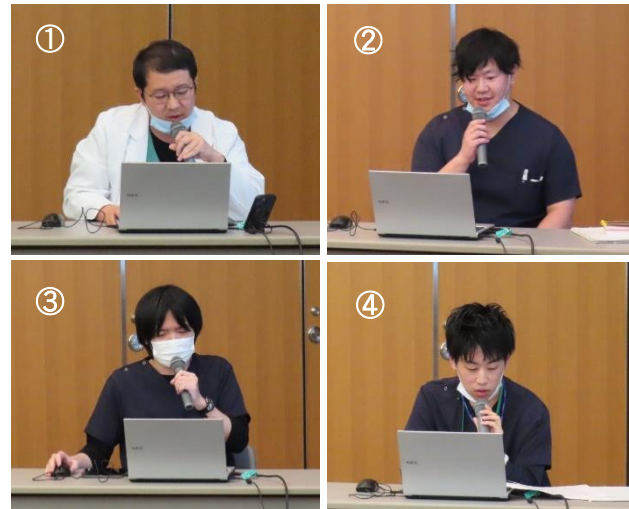
■退職（令和6年2月29日付） ありません

医療従事者研修会を開催しました

◆第335回開放型病床生涯教育研修会 兼 第1回臨床研修医による症例報告会

令和6年2月1日（木）に標記研修会を開催しました。
今回は当院臨床研修医の4人の先生を講師に日々経験された症例について発表されました。

- ① 夜間咳嗽、呼吸困難で救急搬送された胸痛のない
心筋梗塞の一例
市原 豪 2年目臨床研修医
- ② 横隔膜部分切除術後に再発した月経随伴性気胸の一例
山崎 一輝 2年目臨床研修医
- ③ 肺癌化学療法中に発熱性好中球減少症を来した一例
福森 強介 1年目臨床研修医
- ④ 小腸穿孔をきたした多発血管炎性肉芽腫症の一例
大西 航平 1年目臨床研修医



医療従事者研修会を開催します

◆第336回開放型病床生涯教育研修会 兼 第2回臨床研修医による症例報告会

日時：令和6年3月7日（木） 17時30分～
場所：市立長浜病院 2階 講堂
内容：

- ① アルコール依存症が疑われる消化管出血の一例
深野 毅雄 臨床研修医
 - ② 両側に精巣腫瘍をきたした症例（仮）
渡邊 重之 臨床研修医
 - ③ 救急外来での意識障害を主訴とする一例
初村 拓毅 臨床研修医
 - ④ 左片麻痺と意識障害で救急搬送された一例（仮）
廣田 涼也 臨床研修医
- ※今回は集合研修のみです。

◆第337回開放型病床生涯教育研修会 兼 第3回臨床研修医による症例報告会

日時：令和6年3月12日（火） 17時30分～
場所：市立長浜病院 2階 講堂
内容：

- ① 心不全入院中に意識消失をきたした Torsade de Pointes の一例
中田 啓哉 臨床研修医
 - ② P-CAB 内服後に再出血を来した胃潰瘍の一例
小笠原 究 臨床研修医
 - ③ メトトレキサート服用患者の肺炎の一例
金井 克行 臨床研修医
 - ④ 卵巣腫瘍合併妊娠の一例
篠原 三奈 臨床研修医
- ※今回は集合研修のみです。

■編集後記■

今年度も残すところ1ヶ月となりました。皆様方には大変お世話なりありがとうございました。次年度もこの連携だよりを通して市立長浜病院の「今」をお届けできればと思っております。よろしくお祈りいたします。



市立長浜病院 地域医療連携だより

令和6年3月1日号

理念
地域住民の健康を守るため、
「人中心の医療」を発展させ、
地域完結型の医療を推進します。

No.228
市立長浜病院
患者総合支援センター 地域医療連携室



謹啓 時下益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。平素は当院病院事業に格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。3月の外来診察担当医師表を別添資料でお届けいたしますので、ご査収ください。 敬白

がんゲノム医療 がん遺伝子パネル検査による新たな次元に入ったがんの薬剤治療

副院長・がんゲノム診療外来 小室 太郎



従来の抗がん剤である細胞傷害性薬剤には、薬剤耐性の問題が不可避です。そこで生まれてきたのが、全く別の仕組みでがんの増殖などを阻止する方法です。がん化の過程では、たとえば遺伝子変異によって異常な増殖を起こしたりしますが、こういった「がん遺伝子」の変異に対処するのが「がんゲノム医療」です。これまでと異なる観点からの治療を組み合わせることで有効性が高まることは容易に想像がつくところです。

こういったがん遺伝子の変異を診断するため、まずは治療薬の確立したがん遺伝子異常を狙い撃ちして検査する方法（コンパニオン診断）が発達していますが、想定した遺伝子の異常しか知ることができません。こうした治療薬の確立した（つまり保険診療のできる）がん遺伝子の変異に加え、300を超えるがん遺伝子を一度に調べる方法によって、1）治療薬の確立したがん遺伝子変異 2）治験レベルで有効性が知られた薬剤のあるがん遺伝子変異 3）今後有効な薬剤を見つけられる可能性がありそうながん遺伝子変異 がわかるようになりました。これを「がん遺伝子パネル検査（包括的遺伝子検査）」といいます。

この「がん遺伝子パネル検査」の結果の評価はきわめて高い専門性を要し、京都大学医学部附属病院腫瘍内科などの合同検討会（エキスパートパネル）を経て治療薬の提案がなされる決まりとなっています。当院は、令和5年11月に「がんゲノム医療連携病院」に承認され、「がんゲノム診療外来」で「がん遺伝子パネル検査」ができることになりました。いよいよこの湖北地域でがんゲノム医療が始まります。

このように、次世代のがん診断・治療に大きな期待が寄せられると同時に、患者さんおよび血縁者にも関わり得る思わぬ遺伝子的特徴／体質を指摘されることがあり、家族内に心理的動揺が生じるおそれがあります。しかし、それも見方を変えれば知り得なかった将来の病気について適正な管理方法を知ることができるかもしれません。このことについては、当院「遺伝子診療外来」が対応しています。

もう一点注意しなければいけないことがあります。がんゲノム医療では、健康保険などでまかなわれる薬剤の他に健康保険の対象とならない薬剤を提案されることがあります。この場合、従来の入院保険・がん保険ではカバーされないため、高額な支払いをするかまたは民間の先進医療保険・自由診療保険でまかなうかが要求されるので注意・準備が必要です。

※ がんゲノム診療外来の院外受付は、令和6年4月以降の予定です。

「がん遺伝子パネル検査」の提出について

中央検査技術科 技師長 宮元 伸篤



がんゲノム外来を受診し、がんゲノム医療を受ける事が決まれば、がん遺伝子パネル検査（以下、パネル検査）を実施します。パネル検査は生検や手術で摘出され、がんと診断された組織を国内外の専門の検査施設へ依頼します。この検査施設では次世代シーケンサーを使い、がんに関係する300種類以上あるといわれている遺伝子変化を一度に調べます。その検査結果を元に治療方針が検討されます。

中央検査技術科では提出される血液や尿や病理組織などの検体検査および生理学的検査を、「がんゲノム医療連携病院」承認要項のひとつでもあるISO15189規格に基づいて実施しています。病理組織はホルマリンの種類や固定時間だけでなく、固定までの時間や保存温度などについても品質管理に努めています。病理組織の状態がパネル検査に適さない場合は、再度の組織採取や血液検体で行う事もあります。パネル検査については、がんゲノム情報管理センター（G-CAT）のホームページなどをご確認下さい。

令和5年度 患者総合支援センター活動報告

地域連携グループ 尾崎 千鶴



日頃より数多くの患者様をご紹介いただき、ありがとうございます。

令和5年度の紹介患者数は、前年度と比して400件ほど増加し、12,200件と見込んでいます。診療科によっては直近でのご予約が取りにくい状況になっており、ご不便をおかけしております。診療科と調整を図り、スムーズな受け入れができるように努めています。

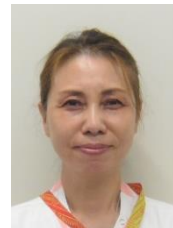
今年度、新たにアレルギー科を開設し、第2・4火曜日に完全予約制でご予約を受け賜っていますのでご利用ください。

また、令和2年6月より開設していました地域外来・検査センターは、新型コロナウイルスが5類感染症に移行となったことから、令和5年4月28日をもって終了いたしました。開設期間中の総検査数は1,571件でした。

今後も地域の先生方との連携を密に図れるよう、スタッフ一同取り組んで参りますのでよろしくお願い申し上げます。



入院支援グループ 服部 直美



入院支援Nsの役割の1つは入院決定した段階から患者・家族と面談し病状や入院前生活状況を聞き取りアセスメントし、退院後の生活を見据えて必要な支援が途切れないように多職種へ情報提供しサポート介入していく事です。

今年度は、支援強化として予定入院から緊急入院、予定外入院患者の介入も開始しました。予定入院以上に予定外、緊急入院の患者・家族の不安は大きく、基本情報（病歴や家族構成、各種アセスメントなど）を事前に収集し退院阻害因子を把握し、治療方針や病状の理解度を確認して気がかりや心配事など、寄り添う姿勢で意思決定を支え関連部署へ情報提供するよう取り組んでいます。

今後は入院決定から入院までの期間に管理栄養士や薬剤師、リハビリ、歯科衛生士、医事課など専門的立場からの指導や説明が受けられ、入院後の回復促進やスムーズな退院に繋がれるような支援となるよう準備もしています。



退院支援グループ 依田 百代



当院は入退院支援加算1を取得し、入院から退院までの切れ目ない支援が提供できるよう努めています。在院日数の短縮化、高齢世帯の増加や核家族化に伴う介護力、支援力の低下、生活困窮など様々な課題のある中で、支援の必要な患者様にタイミングを逃さず介入していけるよう入院前・入院直後の退院支援スクリーニングを強化しています。入院中は、患者・家族様の意思決定支援を大切に、多職種と連携しながら退院後できる限り住み慣れた地域での療養生活が継続できるように支援を進めています。また、地域医療連携室内の病診連携・入院支援・在宅療養支援グループとのつながりを深め継続した支援の充実を目的とし、困難事例に対する進め方や振り返りも含めた事例検討会を定期的実施しています。

昨年度から地域との顔の見える関係性作りとして、訪問診療・訪問看護への同行、今年度は地域包括支援センターへの訪問をさせていただきました。かかりつけ医の先生方をはじめ、地域医療従事者の皆様とより一層連携を深め、患者様の安心・安全な在宅療養生活の提供ができるよう取り組んで参ります。今後ともよろしくお願ひいたします。



総合医療相談グループ 河野 真弓



総合医療相談グループでは、患者様やご家族、地域の医療・福祉関係者の方からの病状や治療の中で生じる様々な相談に対応しています。相談内容は、受診相談や医療費、ご意見、問い合わせ等多岐にわたり、内容によっては、専門的な知識や技術をもつ多職種と連携し、支援を行っています。また、毎週院内関連部署とカンファレンスにて情報共有を行い、改善や支援につなげています。

ここ数年、医療情勢等の影響により外来患者様に関する相談が増えており、グループ内の在宅療養支援看護師が中心となり、病状管理や医療処置への支援、在宅サービスの利用支援等を行っています。今後も、患者様やご家族が安心して適切な医療や介護をうけていただけるように、地域の医療・福祉関係者のみなさまと連携し、支援させていただきますのでお気軽にご相談ください。

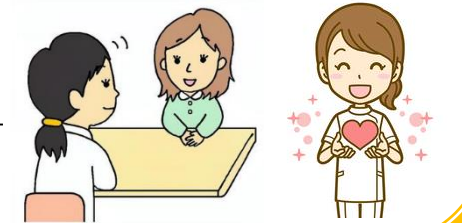
ご利用方法

相談日時 月～金（休診日を除く）8時30分～16時

相談窓口 患者相談窓口（本館1階総合案内横）、患者総合支援センター

相談方法 面談・電話・メール

連絡先 (0749) 68-2300（代）



産前産後ケアステーション「にじいろ」 岸本 尚子



「にじいろ」を開設し2年が経過します。地域活動として「父親のための両親教室」は多くのご夫婦に参加いただいています。次年度は教室内容をリニューアルし、継続して開催します。

幼児への性教育は、年々受講人数も増加し、今年度は幼児914名と保護者79名のほか、教員のみなさまにも参加いただきました。引き続き、園や学校と保護者さんと連携し、子どもたちが性に関して適切に理解し、行動できるよう指導を行ってまいります。

産後ケア事業は育児不安や疲労、授乳指導等の目的で利用されており、5市町から受託し年々利用者が増加しています。今後も安心して出産や育児ができるよう各市町や出産施設との連携を強化し、支援を続けていきます。また、次年度からは産後ケア事業がユニバーサル化されるので、より多くのみなさまを受け入れたいと考えています。最後に、にじいろ相談においては、母親がサポートを必要とされる時に即時対応できるよう努めています。今後ともよろしくお願ひいたします。

